



JICAタンザニア事務所ニュース

パモジャ



2005年8月号

今月のINDEX

- 1) タンザニア援助のツボ「中等学校の現職理数科教師の研修」
- 2) 耳より！ JICA 研修情報
- 3) 事務所からのお知らせ
- 4) 特集：サバサバ

1) タンザニア援助のツボ「中等学校の現職理数科教師の研修」

佐藤由理シニア隊員

「タンザニアの中等学校で行われている授業は教師中心で、生徒はなかなか発言の機会も与えられない」というようなことを、聞いたことがある方も少なくないのではと思います。それもひとつの授業の形ではあるかと思いますが、特に理数科では「実験や体験を通じた学習が重要」というのは、共通認識のようです。わかってはいるのだけれど、もしかしたらやっているつもりなのだけれど、教師自身がそういう授業を受けたことがないので実際はどうしていいかわからない。それが今のタンザニアの状況のようです。このような状況を改革するべく、教育文化省は現職の理数科教師（O-Level）を対象にした研修プログラムを始めました。研修のタイトルは IN-SERVICE TRAINING OF SECONDARY SCHOOL SCIENCE AND MATHEMATICS TEACHERS。タンザニア国内各ゾーンの学校視察官事務所が中心になり、ゾーン内の1つの州を対象に第1回の研修が7月に行われました。南部ゾーンムトワラ州で行われた研修に参加しましたので、その内容について簡単にご紹介させていただきます。

参加者は、当初はムトワラ州内のO-level 中学校中の15校からの理数科4教科の教師、計60名の予定でした。しかし教科兼任の教師も多く、その空きに対象15校以外の学校の教師を補填するという形で、21校より各教科15名が確保されました。

研修期間は3週間、3部構成で行われます。第1週は「どんな目的で、何のために理数科を学ぶか」「教授技術：シラバスから必要な内容を取り出し再構成して授業の形を作るための留意点、授業計画



(Scheme of Work)の作成、レッスンプランの書き方等」「生徒評価：テストの成績のみでなく、いろいろな角度から生徒を評価する手法」「教材の作成：身近な道具で教師が作る教材の研究」「教授技術向上のための実践法：現職教員再教育、教員養成課程の充実、学内や教科グループによる研修会の企画等」「実験室管理：Laboratory Management」等の講義が行われました。

講義形式なのですが、この講義そのものが、受講者のアクティビ





ティーが中心な、「生徒中心型授業」の実践となっています。

例えば実験室管理のセッションでは各グループが「実験室のレイアウトをどのようにあるべきか」「実験器具・薬品の管理で重要なこと」「実験室で起こることが想定される危険な状況と、その対処法」等の課題が与えられました。グループ討議の後に、その結果が発表され、全体で討議という流れです。その全体討議で、一人の教師から「ガスバーナーなんて学校にないのに、その安全管理をとりあげるのは無駄だ」との意見が出ました。それを受けてファシリテーターが、ガスバーナーのある学校の教師に挙手を求めたところ、およそ3分の1の手が上がりました。「無駄だ」と発言した教師はばつが悪そうでしたが、燃料ガスの入手の難しさにも関わらず、政府や援助によって近年建設された実験室にはバーナーが備えられているのは驚きでした。想像以上に教育現場のインフラは進んでいるのかもしれません。



第2週目は、教科ごとに分かれ、それぞれの実験室の管理、実験器具の取り扱いを含めた実習、シラバスの検討と、授業案の作成、模擬授業(参加教師を相手)とその評価ミーティングが行われました。不慣れな教授法で、教師を相手にする授業に戸惑う人もいたようですが、教師達の工夫を凝らした授業は、非常にお互いの参考になったようでした。

第3週目、参加者は学校に振り分けられ、2週目の模擬授業と同内容の授業を、今度は実際の生徒を前にして行いました。授業後には評価ミーティングが持たれ、生徒にも授業についてのアンケート調査が行われました。授業後には評価ミーティングが持たれ、生徒にも授業についてのアンケート調査が行われました。「こんなに自由に実験器具に触らせてもらったのは初めて。こんな授業なら英語でもついていける」ある生物の授業への Form I の生徒の感想です。

今回、セミナーに参加した教師は、今後は学校や地域で、「実習型・生徒中心授業の実践者」として、ここで学んだことを伝える役割を期待されています。

セミナーの最後にファシリテーターの一人が「科学の勉強は、やはり実生活からかけ離れていませんか？」と参加者にたずねました。参加者の応えは即答の NO でした。同様の質問がセミナーの開会時になされた時には、「科学の勉強は実生活からかけ離れていて、教材がないから教えられない」というのが大多数の意見でした。「皆さんがそう応えてくれたということが、セミナーが成功だったということを証明しています」とその人はまとめました。

隊員が派遣されている学校の教師達の中には、今回のセミナーを通して学んだことと、隊員の授業に通じるものを感じた人もいたようです。今後長く教師として働くことが期待される人材を対象とした大掛かりな研修のため、隊員の参加は認められそうにありませんが、機会があったら参加者から話を聞いてみても面白いかと思えます。

研修そのものや、配布資料(テキスト General 1冊、物理・化学・生物・数学各教科1冊、計5冊)に興味のある方は、佐藤までご連絡ください9月には別の州で同様の研修が実施される予定です。

注:写真はすべて研修の様子であり、佐藤シニア隊員が撮影したものです。

2) 耳より! JICA 研修情報

現時点でタンザニア政府に候補者の募集をかけている、日本で行われる研修コースをリストアップしますので、カウンターパートに研修の機会を与える場になれば幸いです。なお、紙面の関係上、研修コース名と研修期間、応募締め切り日のみを記載しますので、詳細な情報が必要な方は事務所の加藤もしくはムソフェまでご連絡く





ださい。以下のコース以外でも研修に関して質問がある場合には、いつでもどうぞ。なお、研修に応募するためには、履歴書、健康診断書およびカントリーレポートの作成、その後人事院のスタンプをもらう等多くの作業と時間が要求されます。ですかなるべく余裕を持って連絡をいただくと助かります。

なお、留意点は以下のとおりです。

- ・ どのコースも基本的にはタンザニア政府の人が対象です(民間会社で働く人は対象になりません。一部のコースは NGO の参加も OK なものもあります)
- ・ どのコースにも応募にあたっての資格要件があります。この要件を満たさないと応募することはできません(特に年齢制限には要注意)。
- ・ どのコースも 1 名 (もしくは 2 名) の枠に対し、4~5 名程度の応募がありますので、応募をしたからといって、受かる保証はありませんので、ご注意を。

現在募集中のコース(コース名、研修期間、応募締め切り日の順)

- | | |
|---|-------------------|
| ・ Traffic police administration seminar | 10/25-11/27, 8/15 |
| ・ Clinical laboratory technology II | 11/6-2/4, 8/11 |

◆ 帰国研修員の声 Ms. Lucy Pancras Mabada (Nurse, Mwananyamala Hospital)

加藤所員

アフリカ地域特設「看護管理(母子)」に参加。研修期間:2005年5月10日~2005年7月23日

今般、約2ヶ月に渡る日本での研修を終えた Ms. Mabada が帰国しました。今回の研修は母子保健における看護管理能力の向上を目標に、アフリカ各地の看護婦を対象に実施されました。ダル・エス・サラーム MWANANYAMALA 病院の小児科病棟にて、看護婦の業務を取り纏める立場のマバダさんは、日本で看護婦の業務を体験することにより、看護システムにおける新たな知識を得ることができたようです。医者、看護婦間のコミュニケーションの大切さ、また、新人看護婦への教育システム、研修制度などを今後、勤務先である MWANANYAMALA 病院内で啓蒙していきたいということです。また、その他にも病院、保健所との連携により地域住民に提供される母子保健サービスにも感銘を受けたようで、今後タンザニアでも市レベルでの包括的な母子保健サービスの向上の必要性を感じたということです。日本での生活については、行く先々で皆がとても親切に対応してくれたおかげで、特に不自由を感じることもなく、また華道、茶道などの日本の伝統文化にも触れることができ、充実した2ヶ月の日本滞在となったようです。



写真左:日本で研修中のムバダさん。真中で赤ちゃんを抱いているのがムバダさんです。

写真右:研修の一環で日本の小学校を訪問した際に小学生と一緒に給食を食べたそうです。

◆ あなたの隣の研修員

老川所員・小林所員

以前パモジャで紹介した地方行政に関する本邦研修についてですが、この研修を通じてこれまでにタンザニア本土 21 州のうち、12 州から行政長官(Regional Administrative Secretary)と 25 県から助役(Council





Director)が大坂を訪問し、今後のタンザニアの地方分権化の活用を目指して日本の地方行政制度を学んでいます。この研修員の方たちは、帰国後ほぼ皆さんが親日家として JICA の活動にご理解いただくに至っており、皆さんの活動においても強力な支援者となりうる可能性もあるので、ここにどの州・県(研修後異動された方もおられるので現在のポストです)からどなたが参加されたかをリストアップしておきます。それぞれの地域での全行政活動を所掌されている方ですので、活動上でのリソースパーソンとしてご参考ください。

	Region/District	Title	Name	Year
1	Dodoma Region	RAS	Ms. Dayness G. S	2002
2	Dodoma MC	MD	Ms. Monica P. Kwilihya	2002
3	Dodoma DC	DED	Mr. Joel M. Shimba	2002
4	Morogoro Region	RAS	Mr. Paul Chikira	2002
5	Morogoro MC	MD	Ms. A.F. Ndimbo	2002
6	Ulanga DC	DED	Ms. Joyce J. Mbutta	2002
7	Mbeya Region	RAS	Mr. Fred R. Mwaisaka	2002
8	Mbeya DC	DED	Mr. Solanus M. Nyimbi	2002
9	Mbozi DC	DED	Mr. Majuto A. Mbuguyu	2002
10	Tanga Region	RAS	Ms. Getrude K. Mpaka	2002
11	Muheza DC	DED	Mr. Obeid K. Mwashu	2002
12	Korogwe DC	DED	Ms. Esther S. Mbigili	2002
13	Mbinga DC	DED	Mr. Hussein A. Katang	2002
14	Arusha Region	RAS	Mr. Joshua K. Kileo	2003
15	Ngorongoro DC	DED	Mr. C. K. Ntigilawanyuma	2003
16	Monduli DC	DED	Mr. Eden A. Munisi	2003
17	Iringa Region	RAS	Ms. Cecilia S. Shirima	2003
18	Makete DC	DED	Mr. S. U. Mwinyekule	2003
19	Iringa MC	MD	Mr. A. D. Midello	2003
20	Kagera Region	RAS	Mr. Hussein H. Seif	2003
21	Ngara DC	DED	Mr. Bakari R. Kingombi	2003
22	Bukoba TC	TD	Mr. Kyuza J. Kitundu	2003
23	Lindi TC	TD	Mr. Malimi E. A. Muya	2003
24	Ruangwa DC	DED	Mr. Nachoa N. Zacharia	2003
25	Kilimanjaro Region	RAS	Ms. N.A. Sumari	2004
26	Hai DC	DED	Mr. Francis. Miti	2004
27	Rombo DC	DED	Ms. Rhoda Nsemwa	2004
28	Mboz-Vwawa Ward	WEO	Mr. Emmanuel Msukwa	2004
29	Singida Region	RAS	Mr. Zawadiel B. Mchome	2004
30	Singida DC	DED	Mr. Charles F. Mwangowa	2004
31	Manyoni DC	DED	Ms. Jane C. Senga	2004
32	Shinyanga Region	RAS	Ms. Nuru. H. Mrisho	2004
33	Kahama DC	DED	Ms. Goody K. Pamba	2004
34	Mtwara Region	RAS	Mr. Yahya F. Mbila	2004
35	Masasi DC	DED	Mr. Noel K. Mayenga	2004





36	Mtwara Mkindanti TC	TD	Mr. Fredrick Ntakabanyula	2004
(略語)	MC:Municipal Council	RAS:Regional Administrative Secretary		
	DC:District Council	MD:Municipal Director		
	TC:Town Council	TD:Town Director		
		DED:District Executive Director		
		WEO:Ward Executive Officer		

3) 事務所からのお知らせ

◆ 今月の危機管理上の特記事項

小林所員

今年度総選挙に向けて、正式な選挙キャンペーンは開始されていないのですが、政治デモの数が増えてきているようです。現在までは暴動に至るようなデモは発生していませんが、今後ともに注意を要します。

事務所がデモの情報を入手した場合、場所・日時・目的・規模・警察の許可の有無を確認します。当局からの許可があった場合、警察官が平和裏にデモが行われるように誘導しますので、大事に至ることはほぼありません。それに対し、当局が許可しないに関わらずデモが実施された場合は鎮圧・解散を図る警察とデモ隊の間での衝突に至る可能性があります。また、治安の悪い地域を通る場合は、デモ隊ではなく周囲の住民や見物人が、デモに触発されて騒ぎを起こすことがあり、注意が必要です。こうした情報をもとにトーンを調整して皆さんへご連絡差し上げています。

皆さんが事務所からデモ情報を受け取った場合、その危険度・規模によりますが、基本的にはそのコースには近寄らない、迂回するというをお願いします。物見遊山で見物し、写真を撮るといったのは間違っても考えないでください。また、住居のそばをデモが通る場合は、出入りを控え、なおかつ目立たないように当日のホームパーティなどは控えるようにお願いします。

今月の被害報告

6/6 朝 11 時半 —13 時半	ムソマ	仕事に出かけた2時間の間に、ドアの鍵が破壊され、自宅に侵入された。自転車・貴重品などが盗まれた。	たとえ短時間の外出でもグリル・ドアの施錠を徹底すること。また、貴重品は部屋に散らかしておかない。
--------------------------	-----	--	--

3年強、安全対策に携わってきましたが、この業務で一番の武器となるのは情報であることを何度も感じました。現在では情報がどうしてもダルエスサラームに偏ってしまっていますが、是非他の都市、農村からも身の回りで見つけた犯罪、事件についての情報提供をお願いしたいと思います。メールでも、電話でも何でも結構です。事務所では頂いた情報を他の方とも共有することで、それぞれの防犯対策を見直す際の参考にして頂きたいと考えております。

それでは、皆さんの安全な生活を祈念しつつ私の安全対策業務もこれで店じまいさせていただきたいと思いますが、来月からは安全対策新店舗”老川堂”が新装開店しますので、今後ともより一層のご協力をお願いいたします。

◆ 協力隊関連

村上調整員

17年度1次隊の9名が、7月12日にタンザニアに着任しました。なんと平均年齢25歳、全員が20歳代(着任時)というとても若々しい面々です。皆様の暖かいご指導、よろしく願いいたします。現地語学訓練の後、8月中旬に各々の任地へ赴任する予定となっております。残念ながら、赴任が遅れている隊員が2名おりますが、彼らの紹介はまた着任後に行いたいと思います。(氏名ABC順)

氏名	職種	配属先	任地
藤井 大輔	農業土木	ザンジバル農業天然資源環境省	ザンジバル





萱沼 範行	コンピュータ技術	ムトワラ VETA	ムトワラ
高村 智子	村落開発普及員	テンゲル CDTI	テンゲル
三木 千太郎	コンピュータ技術	CCT ドドマ	ドドマ
永島 美和子	青少年活動	テメケ区役所教育局	ダルエス
中沢 美保子	村落開発普及員	ンジョンベ県管理事務所	ンジョンベ
坂本 裕美子	理数科教師	ムパチ中等学校	ンジョンベ
田中 聡美	理数科教師	マンガーラ中等学校	マンガーラ
渡邊 洋幸	理数科教師	ドドマ中等学校	ドドマ

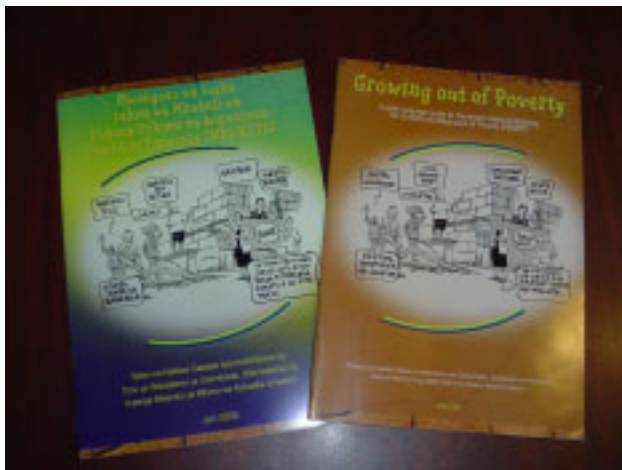
◆ NSGRP/MKUKUTA(National Strategy for Growth and Poverty Reduction) 大衆啓蒙キャンペーン開始 山内企画調査員



貧困削減に焦点を置く5年間の国の中期開発計画の MKUKUTA(スワヒリ語略でムククタ、経済成長と貧困削減のための国家戦略)が今年6月に完成しました。タンザニア政府は広く国民にその内容を知ってもらうため、広報戦略を作成し、その第1弾として7月23日にドドマ国会前広場にて MKUKUTA 大衆啓蒙キャンペーン開始式典が行われました。式典のキャッチフレーズは「経済成長と貧困削減は全てのタンザニア人の責任」であり、貧困削減目標達成のために国民の参加と努力を強く求めています。また本式

典がダルエスサラームでなく、タンザニアの首都ドドマで、今年の予算国会会期の最後に開催されたのは、タンザニア自身の国家戦略としての MKUKUTA の実施開始を広報する意味もあったようです。(写真:MKUKUTA を手にする 企画庁マジヨゴ大臣)

式典には貧困削減担当の国会議員や国務大臣、他省庁・機関の行政官、市民社会組織や民間セクター、ドナーの代表など約400人が出席し、MKUKUTAとその広報戦略(英語版、スワヒリ語版)の他に、JICAが作成・印刷を支援した MKUKUTA 大衆版(英語版、スワヒリ語版)‘Growing out of Poverty’(英語版タイトル)



も発表された他、キャッチフレーズを伝える寸劇や MKUKUTA の内容を伝えるタンザニア風の歌、踊りなど、様々な趣向を凝らした大衆啓蒙のための催しが華やかに行われました。式典ではスピーチ、議事進行が全てスワヒリ語で行われ、政府の国民に向けての MKUKUTA の広報のための意気込みが現れていました。その模様を多くのメディアが報道しており、式典は一応の成功を収めたと言えます。

JICAが作成・印刷を支援した MKUKUTA 大衆版は英語版、スワヒリ語版の両方があり、英語版の方には‘Growing out of Poverty’というタイトルがつけられ、MKUKUTA の内容を平易に説明したものです(写真参照)。これからこの大衆版が NGOsや地方政府など全国各地に配布され、メディアや市民社会組織、政





府内の広報官を通じた MKUKUTA 広報のツールとして活用されます。皆さんもこの国の重要な開発戦略を知るため、まずは分かりやすいこの大衆版からご覧になってみてください。同大衆版 JICA 事務所にもありますのでご希望の方は、川村か山内までお問い合わせください。

◆ JICA 関係者カリブ・クワヘリ

(高津宏幸専門家) 8月2日離任

国家統計局データ提供能力向上プロジェクト 指導科目:データベースシステム、派遣期間: 2004.2~2005.8

幼少時代キリンラガーで育った私にはキリマンジャロは格別に美味しい。スワヒリ語で時間の事をムダという。無駄を省いた効率良いシステムを目指して突き進むのは JICA のみならず時代の流れか。しかし無駄を省くのは結構だが一介の歯車でさえ滑らかに回るには多少の遊びが必要なのだ。“今日出来ることは明日に伸ばすな”の日本人と“明日出来ることは今日するな”のタンザニア人。ムダが無駄と聞こえるうちは衝突するのは当たり前。目先のムダを無駄にして 4.5%の愛を求めませんか? 4.5%で足りない向きには 5.5%のサファリをどうぞ。無駄の持つイメージがポジティブに変わり仕事の効率も上がります。

1 年半の長期にわたりご指導ご鞭撻いただいたタンザニア事務所、専門家、隊員、日本人会、大使館の皆様、大変お世話になりました。どこかでまたお会いできることを楽しみにしております。どうぞ、お元気でお過ごしください。

(小林所員)7月26日離任

振り返ると3年9ヶ月、赴任した日のことをまだ昨日のように覚えているので(確か次長に隊員の感覚でいてはいけなさと釘を刺されました…)短い期間だと思うのですが、その間に起こった色々な出来事の一つ一つ思い出すと、こんなにも色々なことに出会ったのかと驚いてしまいます。この国の特殊な(特殊と言えるのも後2年程度だと信じていますが)事業環境の中で常に新たなものに遭遇し、時には逃げ、時には乗り越え、時には押しつぶされ、してきたことは記憶としてまざまざと残っておりますが、どこまで自分の経験として蓄積されたかをこれから整理していかなければならないと思っています。本部に帰りますと、アフリカ部でエチオピア担当となることから、またゼロからの出発となりますが、一つ一つじっくりと積み上げて行きたいと思えます。

この4年弱の間、未熟ながらも何とかやってくることができたのは、皆さんのご助力の賜物です。この国で今後も仕事を続けられる方々におかれましては、健やかに残り任期を過ごされ、東京で再会できることを楽しみにしております。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

(老川所員) 7月1日着任

みなさん、こんにちは! 7月1日にタンザニア事務所に着任した老川と申します。初の海外勤務、しかも小林さんの後任ということでちょっと緊張しておりますが、希望していたアフリカで働ける喜びをかみしめながら日々スワヒリ語の勉強中です。「らっきょ」のような頭が目印ですので、事務所にお越しの際はぜひお声かけください。





4) 特集：サバサバ(国際貿易フェア)

川村所員

ダルエスに住む人なら一度は訪れたことのある(はず?)サバサバ。正式には Dar es Salaam International



サバサバの入り口。1人1000 シリングの入場料を払って入ります。

Trade Fair といひ、Ministry of Industry and Trade の下にある Board of External Trade が運営をしております。開催場所は Mwalimu J.K. Nyerere Trade Fair Ground(通称サバサバグラウンド, Kilwa Road)で、毎年7月7日をはさみ、10日間程度開催されます。今年のサバサバは29回目にあたり、6月30日から7月10日までの日程で開催されました。まだ一度も行ったことのない人のために、そして行ったことのある人には復習の意味でも簡単にサバサバ

についてご紹介したいと思います。サバサバの中身はといえば、主に物を売る販売

ブースと展示ブースの2種類で、合計で約70~80ブースが出展しています。販売ブースは各地方の婦人グループが自慢の品物を並べたり、Furniture Centre 等街中にあるお店が出店したり、郵便局のブースでは過去に販売した切手を売ったり、刑務所のブースは囚人が作った作品をお得な値段で販売したり、そしてイランやインドといった外国の特産品を売るブースもあります。展示ブースは各省庁(たとえば、人事院のブースでは現在進行している公共サービス改革を広めるためのパネル、パンフレットが展示されていました)や、アメリカ(貿易促進についてのパネル展示)等の大使館が運営するもの(今年度は12カ国が参加したそうです)、TACAIDS(Tanzania Commission for AIDS)のブースではHIV/AIDSの検査を提供したり、様々な展示がありました。

タンザニア人の多くはサバサバプライスでいつもよりちょっと安くなった生活用品を調達する人が多い(バケツを購入し、頭に掛けて歩いている多くのタンザニア人にすれ違います)のですが、なんとと言ってもタンザニア人に一番人



気は Ministry of Tourism and Natural Resources のブース。ここには臨時動物園ができるのです!! 日本だったら、ここでまた別の入場料を取るところですが、サバサバでは無料で入園できます。野生動物の王国と言われるタンザニアでも、タンザニア人の多くは国立公園を訪れたことがないので、サバサバは動物を真近で見る貴重な機会なのです。今年はフラミンゴ、ハイエナ、チンパンジー、猿、ヒョウ、シマウマ等がいましたが、一番人だかりができていたのはライオン、蛇、カメレオンの周りでした。特にカメレオンコーナーは係員の人が希望者の手にカメレオンを乗せてくれるサービスつき。皆おっかなびっくり触っている様子がなんとも微笑ましい光景でした。百獣の王のライオンを見たいという気持ちは分かりますが、なぜ蛇に人だかりができていいのか疑問です。

なお、数年前はJICAも JETRO と共催でサバサバにブースを出展し、タンザニアにおける各々の活動について紹介したこともあります。また、日本大使館は毎年サバサバで開催される柔道・空手大会に支援を行っていま





す(JOCV 藤井隊員が空手大会を支援)。

サバサバに行かれる際には、入り口付近の Information で地図をもらうことをお勧めします。そうすれば広いサバサバランドで迷子にならないし、どこに何のブースがあるか一目でわかります。

なお、Daily Times 紙によると今年のサバサバでは 5,814,000,000 シリング(約5.8億円!!)の経済効果をもたらしたそうです。

☆☆★☆☆☆☆

パモジャでは引き続き皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。特に特集ページでは援助分野に関係なく、タンザニアのさまざまな分野における一般的な概要をご紹介できればと思っています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエスト、投稿など、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

なお、パモジャ(Pamoja)とはスワヒリ語で「一緒に(together)」という意味です。

Email address: Kawamura.Yasuyo@jica.go.jp



